

子どもをささえる 市民がつながる

吹田子ども支援センター

2013 (H25) 年度からの

2020 (R2) 年度

活動報告&活動案内



不登校・発達障がい（凸凹）・学力や進路

教育トラブル・貧困などに悩む親子を支援

吹田市民公益活動団体

吹田子ども支援センター



住所：〒565-0851 吹田市千里山西1丁目2-7-102

阪急関大前駅北改札口西側徒歩2分 千里山西郵便局 階上2階

電話：090-3464-0850

第1版 2020.4

ご 報 告

開設以来8年目を迎えました

2013年（H25）4月、「吹田子ども支援センター」を千里山に開設し、以来7年間、親子・教員の支援、市民団体や地域住民との交流を続けてまいりました。

8年目を迎えるにあたり、ご支援いただいた皆様方へのお礼を申し上げますと共に、ここに、7年間の活動の概要をご報告させていただきます。

深刻な子どもの姿と親の悩みと支援活動

相談の多くは、子育て・教育の悩みの訴えであり、助言や支援を求めるものです。私たち、元教師・大学生・市民であるスタッフが協力し、親子の願いに具体的な支援を行ってきました。活動の中で見える子ども達の歩む姿や、親たちからいただく言葉が私たちの活動を前へ突き動かすエネルギーとなっています。

行政に求めてきた支援施策が実現

一方、活動を通じて現代社会が抱える深刻な現状と、ささやかな市民活動では担いきれない大きな課題を痛感してきました。

そこで、吹田市の各機関に厳しい現実を訴え、行政施策を求め続けてきました。

求めの中で、吹田市は、2016(H28)度には、「生活困窮者の子どもの学習支援教室」を新設し、また市民活動に対しては、「地域住民居場所づくり活動補助金」制度を新設しました。一層の充実を願っております。

相談・学習支援の件数増加・課題

また、相談件数も学習支援件数も多く、スタッフの確保や資金難などの課題も生まれてきています。新年度も教育相談や居場所活動・学習支援・家庭訪問事業など継続して取り組んでいきます。ご支援よろしくお願い致します。

2020年（令和2） 春

代 表 森 本 英 之

元吹田市立第一中学校 校長
元吹田市不登校児童生徒支援員
元吹田自主夜間中学校 代表



活 動 報 告

活 動 の 歩 み

- ◆ 2013年4月1日 千里山(関大前)に開設
- ◆ 2013年5月1日 ホームページを開く「支援センターだより」発行
- ◆ 2013年6月1日 開所式
事務所の開所式には、吹田市長、教育長、吹田市議会議員、教育関係者、地域の方々、サポーター等72名が駆けつけて下さいました。
- ◆ 2013年10月7日 心療内科ショート・デイに協力(毎週木曜日実施)
- ◆ 2014年4月5日 総 会
総会当日には、吹田市長、教育長、国会議員、吹田市議会議員、教育関係者、地域の方々、サポーター等29名が駆けつけて下さいました。
- ◆ 2014年5月1日 事務所隣のマンションで「子どもカフェ」開設
- ◆ 2014年12月26日 大阪府教育センター 研究フォーラムで発表
- ◆ 2015年6月3日 大阪商工信用金庫より社会福祉賞奨励賞受賞
- ◆ 2016年から、吹田市地域住民居場所づくり活動補助金を受ける
- ◆ 2018年3月吹田市子ども・若者支援地域協議会参加
- ◆ 2018年7月大東市「ふれ愛教育協議会」にて講演
- ◆ 2019年8月5日吹田市保護司会にて講演

め ざ す も の

子どもをささえる 市民がつながる

- ① 子どもをささえる…相談・学習支援・居場所(子どもカフェ)
- ② 親・保護者をささえる…子育て教育への助言
- ③ 学校・先生とつながる…地域連携と教育支援
- ④ 市民がつながる…市民の支え合いネットワーク
- ⑤ みんなでまなぶ…講演会・交流会の企画

不登校・発達障がい(凸凹)・学力・進路・教育トラブル・貧困など

活動に広がり

(以下の報告は2013/4/1~2020/03/31 現在までをまとめて報告しています)

- ◆ 会員・賛助会員・サポーター 163人
- ◆ 事務所来訪者及び訪問先懇談者 8282人
- ◆ HPのアクセス 26812件
- ◆ 電話相談・来所相談 1733件
- ◆ 子ども相談と学習支援 4972件
- ◆ 心療内科ショートデイプログラムに協力 48回
- ◆ 講演会や懇談会を実施 32回



千三公民館文化祭
模擬店で参加

地域や大学・学生との連携

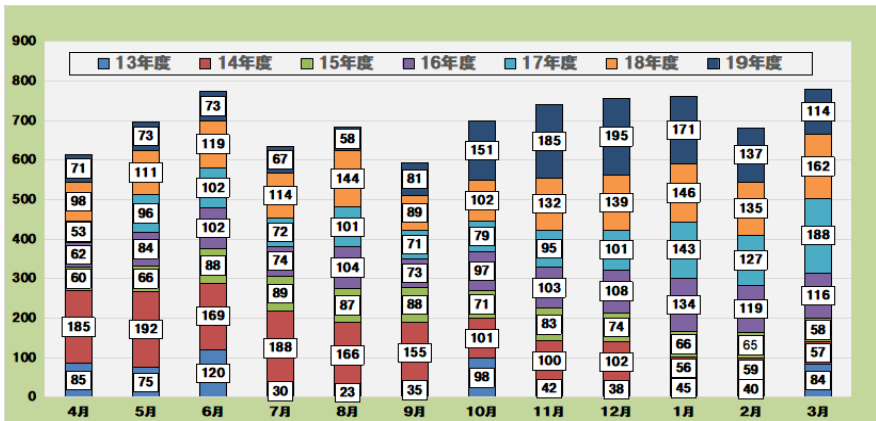
- ◆ 一中校区「たそがれコンサート」 模擬店出店
「千三地区公民館文化祭」 模擬店出店
千三地区公民館企画運営委員として参画。
地区青少年対策会議にオブザーバー参加。
- ◆ 千三地区公民館にて「宿題広場」「子どもサポート広場」を開設。
- ◆ 関西大学・大阪大学など教育関係者・大学生との連携



たそがれ模擬店

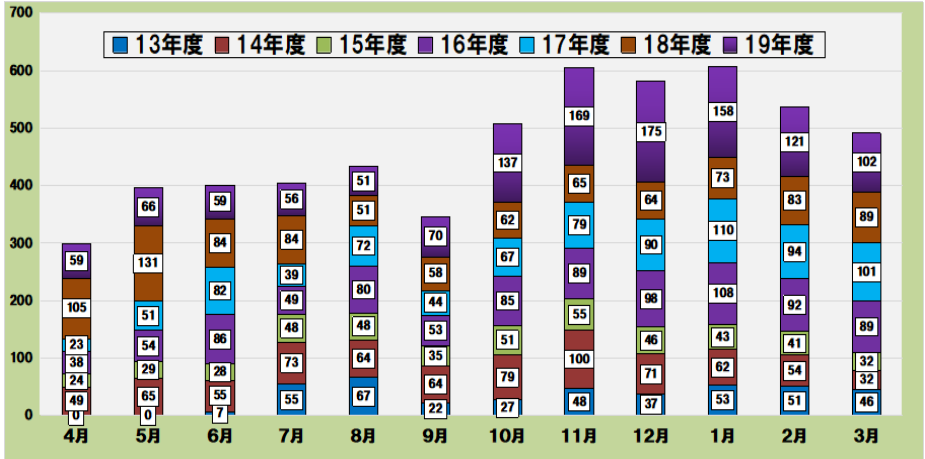
8282人と話し合いました

※ 訪問先は、1人として算出



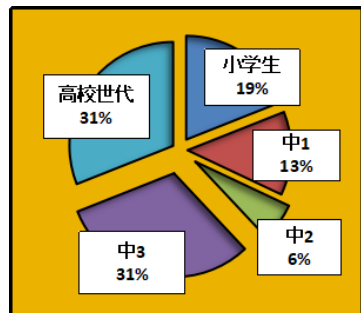
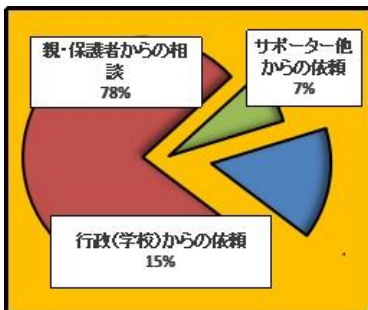
子ども支援は、ほぼ毎日実施

相談の多くは親・保護者



相談の多くは親・保護者

学習支援の中心は、中学3年生



※ 相談割合は2019年度1733ケースより

※ 学習支援の割合は2019年度1223人より



会員・サポーターとしてお力添えを！

2020年度収支報

多くの方々からのサポートをいただき、活動の継続と支援ネットワークを一層充実させたいと思っています。経済的な事情を抱えた方の支援の配慮も継続して行っていきたく願っています。ご支援をお願いします

収入内訳	
吹田市活動補助金	1000000
賛助金・寄付	240563
相談及び学習支援料	413000
合計	1653563

吹田子ども支援センター会員募集

- ◆ 正会員 入会金1万円 年会費3千円(1口)
- ◆ 企業会員 入会金1万円 年会費3万円(1口)
- ◆ 賛助会員 入会金なし 年会費 3千円(1口)
- ◆ サポーター 入会金なし 年会費 なし

★ 正会員・企業会員のみ、総会において議決する権利があります。

★ 正会員・企業会員・賛助会員・サポーターの皆様は、事務局の依頼で、活動へのご協力をお願いします。

★ 総会の案内は、ホームページで お知らせします。

支出内訳	
事務室賃貸料・光熱費	624157
事務と生活用品・教材	193571
講師謝礼	5000
交通費・駐車料金	42498
電話・郵送・HP料	68487
学習指導等的人件費	719850
合計	1653563

お振り込みいただける方は、下記までお願いします！

- 郵便振替 ゆうちょ銀行 千里山西郵便局 099支店
- ◆ 当座預金
- ◆ 口座番号 00970-2-164772
- ◆ 口座名義 吹田子ども支援センター



周囲が怖かった私が勇気をもらった場所

…私がしてもらったように、人に寄り添う道を歩みたい…

… 高校2年生女子M

私が支援センターに通い始めたのは、中学3年生の頃です。私は友達や同級生の話題やノリについていけず、周囲の話し声が怖くなって、学校に行けなくなりました。家では、朝起きて、ご飯食べて、本を読んで、寝るをくりかえす毎日でした。

そんな時、母親から「支援センターに行ってみない？」とすすめられて、このまま家に居続けてどうするのかと悩んでいたこともあって行ってみることにしました。

最初のうちは、隣の机で勉強している人たちの会話も少し怖かったです。そんな私に、教えてくれていた大学生はしんどくなった時のサインを作ってくれました。それは本当にたまにしか使わなかったけど、「しんどい」と言うのが苦手だった私にとってとても安心できるものでした。

しんどい時はそこで止めて、大丈夫な時は英語の勉強をしてをくり返していたら、少しずつ周りも怖くなくなって、学校にもたまに勇気を出して行くようになりました。

支援センターに行くようになってからの学校での初めてのテストでは、英語の点数が一気に上がっていて、とても嬉しかったのを覚えています。それから勉強が楽しくなって、数学や理科、社会も教えてもらうようになりました。

高校の受験の時も、学校に行っていなかった分、成績が低くて、自信がなかった私を毎回毎回励まし一生懸命教えてくれたおかげで、希望する高校に合格することができました。

入学してからも、いろいろあって学校を休んでしまったけれど、今も支援センターで数学や理科、英語を教えてもらっています。

将来の職業については悩み中だけれど、支援センターに通い始めて思っている「人に寄り添いたい」という気持ちを活かせる道に進みたいので、今は大学受験に向けて勉強をがんばっています。

合格できたら、そこからは、私がしてもらったみたいに、支援センターでの仕事や支援センターに来る子たちのお手伝いがしたいです。(2020年3月)

子どもの顔が毎日見れて会話ができる嬉しさ

… 保護者 (男子Yの母)

小学校6年生の秋頃、朝になると腹痛や頭痛を訴えるようになり行き渋りが始まったのです。

当時の私は不登校に対し、偏見や先入観があったので息子の腹痛や頭痛が心の疲れのサインだったことに気づくことができませんでした。

体調や様子の異変には気づいてましたので、心配し、担任やSSCに相談したり登校時に学校まで送ったりしていたものの、「学校へ行かない」という息子の選択肢は当時の私や主人には考えもおよびませんでした。

学校へなかなか行けない息子に対し、主人は「みんな行きたくなくても学校へ行って、やりたくなくても勉強しているんだから、家にいてテレビやゲームをするのはアカンやろ!」と迫りました。

そして主人は、家からゲーム類やテレビも一切撤去してしまいました。その後、小学校を卒業したので、中学校に入学すれば環境も変わるので、心機一転、学校生活が送れるようになるかと思い、撤去していたゲームを渡しました。

そう思っていたのも束の間、中学入学1週間で行けなくなってしまいました。ゲームで昼夜が逆転し始めていたこともその一因になったようです。

行けなくなった頃は、私たちが仕事から帰ると家中の扉が締め切れ、電気も消されていました。

主人が引き籠れないようにと、息子の部屋の扉をはずしてしまいました。すると、息子はベッドで布団を完全に覆って見られないようにし、食事もトイレもお風呂も、私たち夫婦が家にいる間は一切絶つといった事態になりました。

「息子は病んでしまったのではないか」と焦りや不安に苛まれる日々が4か月ほど続きました。

夫婦で話し合い、元のように息子の部屋の扉を戻し、息子の「安全地帯」を確保しました。

しばらくしたある日、部屋から「んー んー」とうなり声が聞こえてきたのでした。部屋の様子を見に行くと息子が腹痛で身もだえていたので、救急車を呼んで病院に運んでもらいました。

そこで4か月ぶりにガリガリに痩せた息子の姿をまじまじと見ました。長く話さなかったせいでしょう、声が擦れて出にくそうでしたが、この4か月間、どんな風に部屋で過ごしていたのかを聞くことが出来ました。

その日から、少しずつ距離を近づけ、息子の関心事など話ができるようになってきました。

そうして1年が過ぎた中学2年生の夏の終わり頃、息子の口から「勉強や運動の遅れを取り戻したい」と言葉が初めて出てきました。

思った時にすぐ行動しなければ!っと思い、以前ママ友から教えてもらっていた「吹田子ども支援センター」に電話をすると、本当に唐突だったにもかかわらず森本先生は、すぐに面談の日程を組んでくださいました。

息子を連れてお会いした日のことは今でもはっきり覚えています。笑顔もなく、目も泳いで合わせられずにいる息子に、森本先生は、ゆっくり優しく声掛けしてくださいました。

話の流れの中で、「よし!明日とりあえず来てみるか!一番勉強の成果が見られるのは数学やから数学からやってみるか?」と息子の背中をクイッと押されました。

私は心中「え!いきなり明日?」と思った矢先に息子の口からは「うん」と返事が出ていました。

そこから、少しずつ少しずつ息子のペースに合わせて日にちを増やしたり、勉強以外で外に連れて行ってもらったり…。

息子は、引きこもりから人との関わりや対話が極度に苦手になっていたので、勉強支援の方を増やしていただき、次第に多くの人と接触することになりました。家庭でも、いつの日からか親子が毎日顔を合わせることや会話が増えていき、雑談の中での笑いも次第に増えていきました。

支援センターに行くだけ、1日に2時間の外出ですが、完全に自分の世界に引きこもっていた息子が外界に出るきっかけとなりました。支援センターに通う日が、週に2日、3日と増え、今では5日通えるようになりました。

息子の気持ちにも何度も波があり、順風満帆ではなかったのですが、そんな時はいつも励ましていただいています。それに加えて、親の私の一喜一憂する心のつぶやきにもメールを送ればすぐに返事をくださり支えていただいています。

そして、中学3年に進級した時に進路をどう選択するのかという話になり、親としては息子はまったく学校へ行っていないのだから通信制高校しかないだろうと思っていました。

しかし森本先生は不登校児でもいろんな選択肢があることを教えて下さり、息子にも可能性はまだまだ沢山あって、現状を知ることから始めようと学力試験を受けてみることから提案していただき、2年ぶりに中学校の門をくぐりました。

学力試験の回を重ね、「R eスタートは全日制の高校」と本人の強い希望から志望校を決め、合格基準に達するようにと日夜支援センターの先生方にお世話になり、晴れて無事に全日制の志望校へ合格することができました。

こうやって毎日息子と顔を合わせ、たわいもない話が出ることほど嬉しいことはありません。

「吹田子ども支援センター」のように、昼夜問わず、苦しい時に駆けつけ親身に相

談にのって下さるボランティアのような支援はなかなかありませんし、このような支援は子どもたちの成長と繋がっているので区切りや終わりがありません。

あの時の森本先生との出会いがなければ今のこの状態はなかったでしょう。本当に感謝しております。そして、これからもお世話になることが出てくると思います。よろしく願います。(2020年2月)

外出を拒む子にありがたい訪問支援

… 保護者 (男子Nの母)

私の息子は、小学生2年の3学期から完全な不登校になりました。もうすぐ5年生です。このまま学校には無縁の生活になりそうな状態ですが…。

息子のイライラのコントロールができずに暴力的な大変な時期の事を思えば、今は、とても穏やかで、落ち着いた日々にはなりました。

息子が小学3年生になった頃、悩んでいた私に、放課後ディの方から、森本先生を紹介頂きました。

連絡をとったところ、すぐに話を聞く時間を作って下さり、また一つ、頼れる所が、出来たと安心した記憶があります。

外に出ることを拒む息子には、訪問してもらえることはとてもありがたかったです。

すぐに訪問支援を依頼しましたが、数か月後、息子は訪問支援を拒否し、結局一旦離れる形になりました。

数か月後、私の勧めでは全く勉強をやろうとしない息子が、森本先生となら勉強をやると言い出したので、このチャンスを大事にせねばとお忙しい森本先生の予定を急ぎょ調整して頂き、週に一回の一時間枠を調整して頂きました。

週一回の利用になって一年くらいが経ちますが、やると言いつつもなかなか気乗りしない息子。森本先生は、先ずは関係作りからと色々な提案され、あの手この手で関わりながら、少しでも勉強できるようにと努力して下さいました。

しかし、納得出来ないと何事も取り組まない手強い息子は、なかなか勉強に至らず、今は訪問していただいた森本先生を相手に将棋をする日々です。

全く勉強しなくなり2年近くが過ぎた今、親としては、最低限の勉強はせめてして欲しいという焦る気持ちを押し殺して、ただただ、本人のやる気が出るのを待っています。

森本先生もタイミングを探しながら、関わって下さっています。まだまだ、先は長い道のりです。

勉強に取り組み、色々な目標を達成しているお子さんの報告を羨ましく見えています。

いつの日か我が子も…と、微かな期待をしつつも、その期待が子どもの負担とならないように子どものペースでいつの日か目的を見つけて頑張ってもらえたらと思っています。

今後とも末永くよろしくお願い致します。(2020年3月)

不登校だった私…感謝しかないです！

… 高校2年生女子R

私は中学二年生の時から学校へ行かなくなりました。

朝と夜が逆の生活になっていて、起きるのは夕方、寝るのは朝という不規則な生活をおくっていました。

ごはんも、お菓子を食べるか、夜ごはんを1日1回だけ食べるという生活でした。起きても特にする事が無いので毎日ぼーとしていました。

家にばかりずっといるので、最初は何ともなかった外に出るという事が怖くなっていきました。しまいには、自分の部屋のカーテンさえ開けるのが怖くなってきました。

こんな生活をずっとしていると将来の不安も出てきました。

「この先、このままだと自分はどうなるんだろうか？自分はいらない、誰からも必要とされていない人間だから生きていいのだろうか？」

そんな時に、両親が「森本先生のところに1回行ってみないか」と言ってきました。すぐに決断できなかったです。でもこのままでは、この繰り返しだと思い、行ってみることにしました。あの頃の私は、多分、笑顔もなく全然しゃべれない子だったと思います。

そんな私を、森本先生や吹田子ども支援センターのみんなはあたたかく迎えてくれました。

最初の1ヶ月ぐらいは、週に1回行くか行かないかぐらいのペースで行っていました。朝と夜も逆転していたので、最初は全然起きられなかったです。行っても、お昼過ぎに来て少し事務の人としゃべってからすぐに帰っていました。

1ヶ月過ぎたあたりから森本先生に勉強してみないかと言われました。最初は、15分も勉強できませんでした。それが20分、30分と段々延びていきました。人から見たら少ないと思います。しかし、学校に行けなくなって家にずっといた私からしたらすごい事です。

勉強する事によって教えてくれる大学生の人としゃべるようになりました。こうして少しずつ人としゃべれるようになっていきました。クリスマスパーティなど色々して、外にも普通に出来るようになりました。

高校も、最初は「自分なんて行けないだろうな」と諦めていました。

ですが、森本先生や吹田子ども支援センターの人々のおかげで無事高校にも入学できました。高校でのテストで点が悪く困っていた私に、今も勉強を教えてくださいます。

私は恵まれていると思います。感謝しかないです。

外にも出られずにずっと家の中にいた私が今こうして外に出られて人としゃべれているのは森本先生や吹田子ども支援センターに出会ったからです。

もしも出会わなければ、外にも出られずに今でも私はずっと家にいたと思います。高校にも行けてなかったと思います。

私は、子どもカフェに入って、人と接せられるようになり、人と接する楽しさがありました。

外に出られなかったり、あまり上手にしゃべれなく悩んでいる子に、子どもカフェに行き、勉強だけでなく、人と接する楽しさをわかってほしいです。

(追記) 高校卒業・大学生に…スタッフの一員に！

… その後の高校2年生女子R

この吹田子ども支援センターの皆さんの支援のおかげで無事高校に入学できました。

高校生になってからも中学生の時に勉強していなかったこともあり、最初は高校の勉強に全然ついていけなかったです。その上、部活や通学で毎日遅くに帰ってきました。

そんな私に合わせて、夜遅い時間からや休みの日も勉強を教えてくださいました。私は、基本英語を中心に教えてもらっていたのですが、定期テストの前になると他の教科も教えてもらいました。それが高校3年生の卒業後まで続きました。おかげで、高校の成績はどんどん伸びていきました。

支援センターに最初に来た時は、高校受験もあきらめていた私でしたが、次第に大学受験を考えるようになりました。教えてくれている大学生の進んだ道にあこがれ、大学に行き留学し外国で生活することも考え始めました。行ってみたい大学が出来ましたが、今の自分の学力では足りなくて悩みました。

でも、そんな私に、英語を教えてくれていた大学生は、わざわざ自分の空いている時間を使って毎日のように教えてくれ、ずーっと励ましてくれました。高校三年間、受験の前日まで続きました。本当に助かりました

大学受験の時も、その方からももらったお守りを持って行きました。

おかげで、高校も無事卒業でき、希望の大学に入学することが出来ました。本当に感謝しかありません。

吹田子ども支援センターがなければ、今の私はないと思います。

今、高校も卒業でき、大学生となり、森本先生に声をかけていただき、今度は、支援センターに来ている他の子どもに教える立場になりました。大学入試が終わってからは、支援センターで小学生や中学生の勉強の手伝いを始めています。

これからは、今まで私がしてきてもらったように勉強や学校のことなど様々なことを教えたり、また、自分の経験から、悩んでいる小中学生の相談にのってあげられるようになるになりたいです。

娘に笑顔が戻りました

… 保護者（女子Tの母）

娘が学校に行けなくなったのは、小学校3年生の冬でした。

はじめはただの風邪だと思いましたが、数日後には起き上がれなくなり、部屋を閉めきって、怯えたように暮らすようになりました。学校はおろか、外出もできなくなりました。

病院の心身症外来で、起立性調節障害と、目で見えて認識する力が弱いという診断を受けました。場の空気を読んだり、行間を読むことも苦手ということです。

入院して院内学級に通い、体調は少し良くなりました。退院後、支援学級に移り、様々な配慮をしていただきました。けれども通えませんでした。1年以上経って、本人にとって学校が恐怖でしかないことを親がやっと理解しました。

小学校には行かないことを決めて、その後は、フリースクールや放課後デイなど色々なところに行きました。けれどもどこに行っても娘の表情は硬いまま、見学だけで諦めるようなことが続きました。

知り合いの方から支援センターのことを教わり、ここならばと思い、連絡をとりました。初めは母のみが相談に行きました。森本先生にこれまでのことを聞いていただき、『娘に何を言っても、「知らん」「わからん」と、他人事のようにしていることが、とてももどかしい』と訴えました。

森本先生は、「親の顔を立てて行けるくらいなら、学校に行っている。それでも行けないから行っていない。」「学校に行きたい、行けないことの辛さを、子どもは絶対に親には見せない。それは子どものプライド」だと話してくださいました。子どもを責める気持ちが小さくなり、心が一気に軽くなりました。家に帰って、面談で聞いたいろいろなことを話すと、娘もうれしそうに「わかってくれる人もいるんやなあ」と言いました。

後日「あの先生のところ、いつ行くの？」と、娘から言ってきました。先生に連

絡すると、家庭訪問に来てくださいました。5年生の1月でした。お話をして、娘が一瞬で心を開いたのがわかりました。先生が来られた日は鼻歌が出て、家の中が明るくなりました。

まもなくカフェに通うことになり、カフェには親が車で送り迎えをしました。カフェでは、初めはお話を中心でしたが、次第に学習も始まり、「大丈夫、できる」と、どんどん授業の日数が増えていきました。カフェでは、中学生の方とも知り合わせてもらいました。

しばらくして、娘が一人で動けることはとても大切だと、一人で自転車で通うよう勧めてもらいました。

娘は、外に出る時には、同級生に会ったらどうしよう、人に見られるのではないかと、とても緊張するようです。先生はそのこともよくわかって下さっていました。初めて一人で自転車でカフェに通った日、先生に付き添っていただいたことが、大きな安心だったと思います。

自転車でカフェに行けるようになってからは、「一人でできる。お母さんは過保護過ぎ。」と言い、急に自信がついたようでした。

ある日、娘が「私も大学行けるんや。」とぼそっと言いました。それから、将来の夢を語るようになりました。しばらく考えもしなかったことでした。そして、「留学したいから、この中学校を受けたい」と言い出しました。森本先生と出会って、わずか1~2か月後のことです。

森本先生が受験のための学習計画を組んでくださいました。その中で、たくさん先生に勉強を教えてくださいました。学校の先生だった人やボランティアの市民の方、大学生の方で、とてもバラエティーに富んだ素晴らしい先生方で、本当にありがたい出会いでした。

娘は人との関わり方が不器用で、対人関係で経験不足ですので、集団や同年代の方の中に入ることは難しいです。本人の様子に合わせて丁寧にすすめていただいたと感謝しています。

ずっと順調なわけではなく、夏休みの時期から2~3ヵ月全く通えなくなりました。体調も気持ちも戻らず、再度入院しました。その間も、先生は連絡をくださり、寄り添っていて下さいました。カンファレンスにも来ていただきました。

定期的な母との面談では、現状と目標の確認もありますが、母子の関係について、たくさん話していただいています。

『何でも子どもの言いなりの親』も、『管理しすぎる親』も、子どもにとってはものすごく不幸ということがわかりました。まだまだ私はのめりこみ過ぎるのですが、心に留めて、子どもに接するようになりました。

11月からは、受験科目に絞って、森本先生に家庭訪問でみていただきました。終盤は、先生の鬼の迫力に圧倒されながら、受験に備えました。おかげで「がんば

った」という気持ちで試験に挑めました。合格発表の時、いつもクールな娘が、「やったー！」と声をあげました。本当にうれしかったのだと思います。

入学が決まった後も体調が悪い日が多く、すべてが解決したわけではありません。けれども、不安ながらも入学を楽しみに過ごしています。この先何があっても、「カフェがあるからなんとかなる」と本人は言っています。本当の意味での居場所を見つけたのだと思います。

学校に行かなくてもいいよと言ってくれる人はたくさんいますが、じゃあ学校に行かずにどうすればいいのか、その先どうなるのか、を示してくれる人はあまりいませんでした。娘には学習の支援が大きな力になりました。とはいえ小学校に3年弱しか行っていません。ゴールを見据えた方針のもと、手取り足取り教えて頂くことが必要でした。普通の家庭教師では、経済的に無理でした。何より、娘と親が安心してついていけたのは、吹田子ども支援センターだったからだと思います。支援センターに出会えて娘は本当に幸運です。ありがとうございます。支援センターの活動が続き、私達のように救われる親子が少しでも増えるといいなと思います。

※ カフェ（子どもカフェ）とは、吹田子ども支援センターの子どもの居場所兼学習室のことで。

傷つき怯える息子の助けを求めて

…保護者（男子Tの母）

とうとう恐れていたことが現実になりました。

それは、息子が中学1年生の12月のある日、学校に行けなくなったのです。

「誰か助けて！」…私は、気がつけば以前にネット検索で見つけた「吹田子ども支援センター」へ電話をかけていました。

それが、森本先生との初めての出会いでした。

必死の余り、名前も名乗らず話し始めたにもかかわらず、しっかりと受け止め聴いて下さり、「今からセンターに来られますか」とのお話に、私達親子は、その日のうちにセンターの扉を開けました。

周りのすべてに絶望し、いますぐ差しのべてくれる手が欲しかったのです。

それから約1年間、学習支援や不登校時の居場所としてお世話になりました。

みんなそれぞれに事情も理由も違い、不登校のかたちもさまざまだと思いますが、息子の場合は、はっきりとした原因があり、中学1年生の10月頃から「行きしぶり」が出はじめており、すでに精神的に追いつめられていたのです。

センターに通い始めた頃は、息子は、傷つき、身も心もボロボロの状態でした。同じ学校の中学生に出会うことに怯え、いつもびくびくし、家から出なくなっていたのですが、きちんと話を聴いてくれる森本先生のもとへは出かけていきました。

学習面でも凸凹があり、集中力や気分にもムラがある息子にとことん根気強く向き合い、時には良き相談相手になっていただくうち、カチカチに固まっていた心が少しずつつやわらかくなって、精神的に落ち着きを取り戻していきました。

そのうち学校へ通えるようになり、1年後には、高校へ行くことを諦めていた息子が高校入試という目標に向かってしっかり歩み始めるまでになりました。

現在、第一希望の高校に合格して、毎日とても充実した生活をおくっています。

ふり返ると、学校に行けなくなったあの日、家族以外に「助けて!」と言える勇氣を持ち、あのタイミングで迷わず電話をかけたこと、すぐに行動したこと、先生方の話や提案に耳を傾け、受け入れて対応できたこと、そして、何かあった時すぐに話せる親子関係であったこと等が良い方向に繋がった条件だったと思います。

これらの条件は、吹田子ども支援センターが開設されていたからこそそろった事で、もしも森本先生に出会っていなければ息子は今でも自分の部屋から出ることはなかったかもしれません。

息子にかかわってくださったセンターのすべてのみなさん、本当にありがとうございました。今でも、毎日、毎日、感謝しております。

(追記) あれから3年 息子は今…

…保護者(男子Tの母)

あれから3年経ったんだなあ…春を迎え、遠目に桜を見ては、支援センターでお世話になっていた壮絶な日々を思い出しています。

支援センターでお世話になっていた頃……それはそれは泥沼の中 親子で七転八倒の壮絶な日々でした。

そんな息子がその後どうなったかを、話したいと思います。

息子は学習面に凸凹があり、こだわりも特性もあり、そのことで学校生活の中で壮絶ないじめを受け不登校になりました。

支援センターと出会い、心に生きる灯をともした息子が新天地(進路)に選んだのが全寮制の農業高校でした。

進路選択を目前にした息子の中学3年生の秋から、私はどこかに必ず息子の居場所があるはずだと信じ、全国規模で進路をさがしました。場合によっては引越す覚悟でした。

すると息子の心に ビビッ と響く学校に出会ったのです。

不登校の中学3年生が家を出て寮に入ることを選ぶなんて…と驚かれるかも知れませんが 本人いわく『自分のレットテルが何もない場所で0から人生をやり直したかっ

た』と言っていました。

3年間の寮生活、もしかしたら逃げ帰って来るかもいつも不安な親心をよそに息子はというと、まるで水を得た魚のように生き生きと生活し一生の「友」も得ることができました。もちろん3年間辛いこと苦しいことも多々ありました。その度に互いに傷つけ、傷つけられ、削り、削られ、卒業式には皆丸く磨き上げられた光輝く原石のように眩しく見えました。

現在18歳の息子は本格的に酪農を学ぶため、この春から農業大学校に進学しまた寮生活を送っています。今後も自分が持っている特性(凸凹)を息子自身が理解し付き合い続けなければいけないという課題はありますが…

森本先生の教え通り不必要な手助けは我慢してそっと見守っていこうと思います。

あれから3年、もう一度振り返り思うことは

- ◆ 私自身意識してきたことですが、心配事、愚痴などどんな些細な事でも話せる親子関係を築いていこうとしてきた事です。それを幼児期から続けてこれたことです。
- ◆ いざという時「助けて」と言える吹田子ども支援センターの存在があったことです。

息子には、昼夜を問わず必死になって本気で向き合ってくれた先生方がいたこと。そのことが、息子が「生きる」ことに希望を持ち、人生を「再スタート」させた原点になったと思います。

母親の私には、親のプライドなんてかなぐり捨てて、本気で子どもと向き合うことと教えてもらったこと。何十年も生きてきて誰も教えてくれなかったことをたくさん知りました。

この2つが、私たち親子が闇のトンネルから抜け出せた鍵があり、支援センターが息子の人生再スタートの原点だと確信をもって言える理由です。

この先も支援センターと出会い、もう一度顔を上げ前を向くことができるお子さんが一人でも増えることを願ってやみません。

最後に息子からの一言

『一人前に自立したら 先生に会いに行くよ』
先生方、どうぞ気長にお待ちくださいませ。

長くて苦しい日々を過ごして

…保護者 (男子Sの母)

「もう学校に無理に行かそうとするのはやめよう。」と毎日学校に行き渋る子どもと

格闘していた私はようやく決断しました。

今、高校2年生になる子どもは、小学6年から中学3年までの4年間、不登校でした。子どもには何か特別な理由があったわけではないものの、小学3年生のころから時々学校に行き渋りがあり、人と関わる事や環境や状況の変化が苦手なところがありました。

しかし、その頃の私にはまさに青天の霹靂でした。子どもの気持ちはいつも不安定で生活リズムは崩れ、勉強は手につかず、テレビやゲームで暇をつぶし、母子で過ごす不安な時間が果てしなく続きました。

自分の子どもが学校に行けなくなるなんて到底信じられず、いつになったら教室に行けるようになるんだろう、でもどうすればいいんだろうと、途方に暮れる毎日でした。そんな子どもを親として受け入れることは本当に難しく、長く苦しい日々が続きました。

それでも私は子どもの現状を理解し、少しでもこの状態が何とかならないかと思い、ありとあらゆる所で相談したり、手当たり次第、本で調べたりしました。そういう手探りの状態が長く続き、試行錯誤をしながらも子どもが安心できる場所や一緒に居てもらえる人たちを探し続けた結果、少しずつ図書館や学校の相談室、通級指導教室、適応指導教室などで過ごすことができるようになりました。しかし改善は見られたものの、子どもの調子には好不調の波があり、外出することがとても難しくなることも度々ありました。

そんな折、子どもが中学2年の秋に吹田子ども支援センターの講演会があることを小学校時代の先生から紹介して頂き、参加する機会に恵まれました。そこで吹田子ども支援センターの活動を知り、早速、森本先生と津田先生に相談に乗って頂きました。お話をしているうちに森本先生とは以前子どものことでご縁があったこともわかり、子どもを連れて来ることにしました。

その頃の子どもは朝起きられない状態だったので、不規則な生活を少しでも改善するために津田先生に週一回、午前中の家庭訪問をお願いしました。その後、次第に津田先生に心を開いていき、一人でも吹田子ども支援センターへ訪問できるようになりました。

このセンターでは、津田先生と話をしたり、好きなパソコンやゲームをさせてもらったり、森本先生やスタッフの方たちとも話をし、同世代の生徒の人たちとも徐々に関わるができるようになっていきました。

そのうち午前と夕方に子どもカフェという子ども同士の交流の場に通うようになり、安心して過ごすことのできる、なくてはならない場所になっていきました。

津田先生は子どもに対して熱意を持って親身に向き合い、子どもの先を見据えて今何が必要かを常に考えながら接して下さいました。主人共々私達に対して的確なアドバイスも下さって、親にとっても大きな支えとなって下さいました。

吹田子ども支援センターでの皆との関わりを通して子どももゆっくりと成長して

いき、吹田子ども支援センターの友達と高校のオープンスクールに行くことができたり、試験自体経験がなかったにもかかわらず模擬試験を受けることができるまでになりました。また、友達とちょっとした口げんかもしました。

子どもにとっては、これらの経験が非常に大きく、そこが単なる居場所ではなく、いつも自分を受け入れてくれる先生と仲間がいる場所となり、自信と希望につながっていったのだと思います。おかげで全く見えなかった高校進学への道筋も見えてきました。

子どもは、4年間、義務教育の流れからは離れてしまいましたが、本当に多くの人たちに支えて頂きながら成長することができました。中でも津田先生には何かと連絡し、今でも相談に乗って頂きながら学校生活を送っています。そして、高校の先生方や今までお世話になった先生方にも支えて頂き、まだまだ課題はあるものの、少しずつ自分でできることを増やしていっています。

最近子どもが、「自分はたとえ中学に行けていたとしてもどこかで不登校になっていたと思う。」と言っていました。不登校は偶然ではなく、子どもにとって避けては通れないプロセスだったのかもしれませんが。また別の時に、「今は困ったことがあってもいつでも相談できる先生がいる。」とも言っていました。

私達にとって吹田子ども支援センターとの出会いがあったお陰で今の子どもの成長があるように思えます。子どもにとっても時間を問わず、いつでも頼ることのできる津田先生に出会うことができ、先生にはご負担を多々お掛けしていますが、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。

出会いに感謝！進路が開けた

…保護者（男子Mの母）

息子は、知的障がい者です。中学の進学も支援学校に通うか迷いましたが、将来のことを考えて地元の中学校に通いました。

中学三年生になり、進路を決める事が迫られた二学期、私も息子に真剣に向かい、進路の話をしました。

進路に対する本人の意思を聞くと、自分もみんなと同じような高校に行きたいと言ってきました。親として、息子の気持ちを大切にしたいと思うけれども、息子の願いが実現するとはなかなか思えず、頭を抱えながらも何とか息子の願いを実現させてやれないものかと考えました。

その話を担任の先生に伝えると、担任の先生は驚き、母親の私に「息子が普通の高校へ進学するには、ある程度の成績がないと、まず、受からない」と説明してくれま

した。

実際、息子の成績は、ほぼ内申のみの点数で、入試試験で他のお子様と同じような点数を取ることは考えられませんでした。

息子に入試に合格する学力をつけてくれる所を求めて、学習塾など心当たりの所を訪ねてはみたものの、どこも「受け入れます」との良い返事をいただけず、困っていました。

そうした時、知り合いの人から吹田子ども支援センターの連絡先を教えて頂き、電話で相談し、さっそく訪ねました。

森本先生とお会いし、その際に息子の気持ちや障がいの様子、今までの経過や志望校を説明しました。

必死に説明したものの、てっきり断りの返事が返ってくるものと思っていた私に「良いですよ。精一杯やりましょう。」の一言が返ってきました。驚き嬉しかった事を覚えています。

さっそく、森本先生の勉強が始まりました。先生が息子に教えて下さったのは、先ずは数学でした。森本先生の求めで、志望校の「過去問」を買い、持参させました。

息子は、人見知りが特に激しく、なかなか心を開かないのですが、息子の目線に合わせ、優しく励まし続けてくれる森本先生に、心を開き、学習しようとする気持ちが少しずつ生まれてきました。

しかし、初めのうちは、森本先生との学習は、およそ30分程度で終了でした。

というのも、息子は、集中して勉強をした経験がなかったので、気持ちが長く続かなかったのです。

毎日毎日、「過去問」から同じ問題を解くのですが、5分後には解き方を忘れ、なかなか定着することはありませんでした。

それなのに、森本先生は、毎日、息子がわかるようにと用紙に解き方を何回も何回も書き、丁寧に時間をかけて取り組んでくれました。

学習を始めて2ヶ月が過ぎた頃から、先生の情熱、熱心な教え方に息子の学習意欲が次第に出てきました。高校への行きたいという気持ちも高まり、集中力も持続してきたのです。

なんと、12月に入る頃、森本先生と毎日1時間30分の勉強をするようになりました。

森本先生から来る毎日の学習の様子を伝えるメールや電話、息子が持ち帰るメモ用紙から学習の様子が伝わり、息子の頑張りが実感できました。

そして2月、私立高校の入試試験を迎えました。合否発表の通知が自宅に届くまで重苦しく時間を過ごしていました。届きました。なんと！合格の文字が…。

森本先生に伝えると「よくやった！」と息子を褒めてくれました。嬉しかったです。

息子のように勉強のしたことのない子どもを一から丁寧に教えてくれる先生に出会えたことが本当に良かったと思っています。

私立高校を併願で合格したことを先生やクラスの人に伝えても、なかなか信用してもらえなかったらしく、次の日、親に内緒で合格通知を学校に持っていきました。合格通知を手にした子ども達は、やっと息子が本当に合格したことを信じてくれたと当日のことを生き生きと話してくれました。

今までクラスではなじめていなかったのですが、その日を境にクラスの子と会話をするが増えていきました。同じ受験生の仲間として接してくれたようです。

息子は、努力することの大事さを知り、頑張った自分に誇りを持つようになっていきました。

親から先生にお願いし、その日以降の全ての科目をクラスの人と同じ教室で勉強することになりました。

私立高校に合格したものの、子どもや私の一番進学させてやりたい学校は、ある公立高校でした。新たな目標に向かって一ヶ月、森本先生との毎日の勉強が続きました。面接練習も何度もしたとのことでした。

3月の公立高校の入試。その面接では、息子の自信が、声の大きさにあらわれ、親の私が今まで聞いたことのない大きな声で志望動機を面接官に伝えることが出来ました。

無事、公立高校にも受かり、念願の高校生になることが出来ました。

高校2年生となった現在も、息子は、毎日元気に通学し、吹田子ども支援センターでの森本先生の学習も、また、他のスタッフの方との学習も続いています。

本当に吹田子ども支援センターに出会わなければ、希望する高校に行けませんでしたし、息子自身の生き方も、変化がないままだったと思います。

息子の目線でのサポートしていただける場所に出会えて感謝しています。本当にありがとうございました。

勉強は苦痛ではないとわかりました

…中学1年生女子M

私は、森本先生のところに来たばかりのころ、学校を休んでばかりで勉強も一切せず、学校にいたことが苦痛でした。家では、勉強や宿題をしないので親に怒られて家の中の空気が毎日ビリビリしていました。

学校に行っても、家で怒られてばかりできげんが悪いし、勉強もしてないので、まったく授業がわからなくて、おもしろくありませんでした。

でも、どこかで「このままではだめだ」と危機感も感じていました。

ここでは、最初はあまり勉強せず、先生とお話したりして、すぐに帰ったりしていましたが、「学校で勉強についていけないのは嫌だな…」と思い、少しずつするよう

になりました。

しばらくして、ここに来て、1回目のテスト期間になりました。

とりあえず、全教科の点を上げるのは、あの時の私には無理があったので、社会をまずは確実に点を上げるように努力をしました。

テスト期間中は、ほぼ毎日ここに来て、社会を勉強し続けました。

そして、テストが返ってきたら20点以上、点が上がっていました！

これに親も驚いていて、すぐに森本先生に電話をして知らせました。

先生も喜んでくれて、私もちゃんと結果が出たことがうれしくて、勉強が「苦」では、なくなりました。他の人から見たらたいしたことのない点数だけど、私にとっては大きな喜びでした。

勉強は、コツをしっかりとつかんだら、苦痛ではないとわかりました。

それからは、少しずつ他の教科も取り組むようにしています。

今は、週に4回、そのうち2回を森本先生と社会と英語の勉強を、もう2回を寺島先生と数学の勉強をしています。数学では、苦手だった計算問題も最近出来るようになってうれしいです。

今度は、同級生と同じくらいの点数がとれたらいいなあ。

(追記)

高校入学…今後はセンターのお手伝いも！

…その後の高校1年生女子M

勉強する気持ちにもなれず、学校にいたことが苦痛で学校をよく休んだ私でしたが、ここに来てからだんだん落ち着き、自分の夢も定まってきて、昔より勉強にはげめるようになりました。毎日のようにここに来て勉強していました。

そのおかげで、希望する看護学科のある高校に進学することができました。

これからは、高校生になっても自分の勉強をすると同時に、ここに来ていた人のお手伝いができたらと思います。

貴重な出会いに感謝

…今は、夢に向かい歩む娘です…

…保護者(女子Mの母)

娘は中学一年の時からこちらでお世話になりこの2月に無事に志望校に合格することができました。

こちらにお世話になる前の娘の状態は、学校へ登校していると思っていたら後で引き返ってきて部屋の布団に引きこもっていたり、嘘をついたり、もちろん目標もなく勉

強する意欲もまったく感じられない状態でした。

見かねた母親の私は、がみがみ叱りつけるだけで、親子の関係も最悪の状態でした。その時の私の心境は、希望もなく解決方法もわからず本当に疲れ切っていました。

そんな時に学校のカウンセラーの方の紹介で、森本先生に出会い、こちらにお世話になることになりました。

初めは、娘の胸にたまったどうしようもない想いや出来事などの話を先生方は根気よく聞いてくださり、娘の良いところを見つけて伝えてくださり段々と娘も先生方を信頼して心を開いていっているようでした。

学校は行きたがらなくてもこちらにはどんな時でも休みたがらずに約3年間、自転車約30分の距離を雨の日も寒い日も暑い日もひたすら通っていました。

そうこうしている毎日の中で、娘は将来、看護師になりたいと言い出しその目標を先生方は温かく応援して下さりなんとか希望した看護学科のある高校への入学も決まりました。

私は、娘の良いところも見つけられず、信頼もできず苦しかった1年生の時を振り返ると本当にこの貴重な出会いに感謝しています。

高校受験が終わったので私は、3月でこちらも卒業かなと考えていましたが、娘の強い希望もあり、無事に看護学校に入学するまではこちらに気にせずに通っていいとの森本先生の言葉に甘えて通わせて頂くことになりました。

道半ばですが、このまま諦めずに将来の自分の夢を実現して先生方に恩返しをしてほしいと思います。

そして、笑顔のなかった娘がここまで元気になれたことに、森本先生、寺島先生、李先生、その他の先生方にこの場を借りてお礼を申し上げます。

また高校3年間どうぞよろしくお願い致します。

わが子が一步踏み出す場所に

… 保護者 (女子Rの母)

わが子が学校に行くことを辛そうにしたり、イライラして今までの様子と違うなど感じたのは、中学2年生の5月くらいでした。

担任の先生にも相談しましたが、学校では特に変わった様子がないとのことでした。

しかし、明らかに登校前のため息をついたり、遅刻していく日も増え、体調の悪さを訴えるようになり、休みがちになりました。ここから、欠席の期間が長くなり、結局中学生生活が終わるまで、学校に行かなくなりました。

なんとか登校してもらおうと転校も2回ほどしましたが、どこも続かず、体調の悪

さを訴えるばかりでどんどん社会と離れて閉じこもるようになりました。

学校以外の相談場所もなく、途方に暮れていたとき、内科のお医者さんに診てもらうことにやっと同意したので、わが子を連れていき、そこから別の病院を経由して、吹田こども支援センターのことを知りました。

といっても、どんなところかわからない機関なので、親子ともためらいながらでした。森本先生はすぐに時間を作ってください、親身に話を聞いてくださりました。社会と離れて一人でいたわが子が森本先生の問いかけに、言葉を選びながら、話す姿に涙がでました。

「いつでも来ていいし、いつでも帰っていいよ」と森本先生が、優しく話してくださったことが、《学校に行きたくても行けない。行かなくてはいけないとわかっていてもいけない》わが子にとって、一步を踏み出す場所になりました。

その日から少しずつ、支援センターに顔をだすようになりました。笑顔が増え、支援センターであった話を楽しそうにする姿は以前の時の様子と変わらなくなってきました。

毎日支援センターに通えるようになり、次に迫ってきた問題は高校受験でした。現実から逃避しているわが子に支援センターのスタッフの方は、それぞれの立場で励ましたり、耳の痛い話をしたり、進学に必要な情報を集めてくださったりしました。

時には心を鬼にして、子どものために、突き放して自分で考える時間を持たせたりもしていただきました。個々に合わせた支援を考えて取り組み、思春期のややこしい子どもに向き合ってくださいました。

わが子は現在、高校2年生になり、毎日高校に通っています。将来のことも夢を持つようになり、今は次の大学受験に向けて勉強したり、クラブ活動もがんばっています。中学時代にできなかったことを高校生活の中で楽しんでいる姿を見て嬉しく思っています。

3年前、どうしていいかわからず、困っていたことを考えると、今は、長いトンネルを抜け出せたところです。もう少し早く支援センターの存在を知っていたら、無駄な転校を繰り返すことなく、子どもの心の傷もここまで深くなることはなかったのでは？と今になっては思います。

私のようにこういう支援をされている民間機関があることを知らない方はたくさんいるでしょう。

今も困っておられる親子にこの吹田こども支援センターのことを少しでも早く知っていただいて、長くて暗いトンネルからでる、一筋の明かりを見つけられることを祈ります。

最後になりましたが、森本先生はじめ、吹田こども支援センターのスタッフの方々にはお礼を言い尽くせないほど感謝していることを付け加えさせていただきます。

子どもと過ごす新鮮で充実した日々

…学習支援スタッフとして参加して…

…スタッフ Y (元教師)

学習支援スタッフとして英語を教え始めてほぼ一年がたちました。

私は、昨年度の3月末に退職するまで長く中学・高校で英語を教えてきましたが、4月に地元の友人に紹介され学習支援のスタッフとして参加することになりました。

学校に勤務していた頃には、不登校になる生徒・退学してしまう生徒がいても充分にかかわることができなかつたので、子どもたちにより親しくかかわれる場所があるのは素晴らしいことだと思いました。

この一年間の中で、私がかかわった5人の子どもたちは、それぞれにしんどさをかかえながらも頑張ろうとしていました。私も、一人一人の状況、興味・目標にあわせた指導を心がけました。子どもの体調が悪かったりなど来ることができない日もありましたが、なんとか一年間続けられたと思います。

はじめはテキストを忘れてたり、宿題をやってこなかったりしていましたが、少しずつ学習に慣れてきて、勉強することが嫌ではなくなってきたようでした。ほぼ毎回小テストをするのですが、次第に点が取れるようになり、「やればできる」ことを実感してくれたのではないのでしょうか。

中学3年生の3人は高校に合格し、新しい歩みを始めています。英語検定4級、準2級に合格した子どももいます。子ども達や私にとっても、頑張った成果が目に見えるのはうれしいことです。

成果が自信につながり、子どもカフェを卒業しても、ひとりで英語を勉強することができる力につながるものと信じています。

活動に参加して一年、学校には見ることの出来なかつた子どもの姿に接し、発見と驚きの連続で毎日が新鮮でした。ただし、私のかかわった子どもたちは、少なくとも、「家から外に出て、英語を勉強するために子どもカフェ（支援センターの学習場所）まで来る」ことができる子ども達です。

ここに至るまでの間に、スタッフの方々の引きこもっている子どもたちへの地道な働きかけやきめ細かな配慮があることを日々思っています。

まだまだ初心者ですが、これからも充実した日々を子どもたちと共に過ごしていきたいです。

子どもカフェでの支援

…スタッフ A (大学院生)

私は3年ほど前から、教員を目指しているということもあり、恩師のお誘いで、子どもカフェで子どもたちの学習支援をさせて頂いています。学習支援といっても、初めの頃はトランプや雑談など子どもたちの居場所作りが主な活動でした。

その中で、一人の女の子が英語の学習を始めたいということを目にし、1週間に1度くらいのペースで英語学習を開始することになりました。

なかなか思うように学習を進めることができていなかった彼女にとって、この一歩はとても大きな一歩であったと感じ、私もどうにか彼女の力になりたいと思いました。初めは慣れない状況で、15分ほどの学習がやっとだった彼女ですが、それでも投げ出さずに少しずつ学習し、今では毎週1時間以上の授業をこなしています。そうして段々と彼女の英語に対する関心も高まり、それが次には自信につながっていく様子を見ることができ、涙が出るほど感動したこともあります。

中学校からの高校進学に対してさえ前向きではなかった彼女が、高校進学を決め現在は大学進学に積極的に挑戦する姿は本当に逞しく、パワーに溢れています。

私はこの学習支援を通して、子どもたちの持つ可能性を目の当たりにしました。様々な日々の困難の中で、子どもたちが立ち止まってしまうこともあると思います。

しかし、彼らにはもう一度歩き出す力があり、その力を蓄える居場所として子どもカフェの存在は非常に重要なものであると感じました。私のような少し自分たちよりも年上の学生とたわいの無い話をする時間や、他者と関わる時間をもつことは、立ち止まっている子どもたちの心を少し外向きに開いてくれるのではないかと思います。

親から言われると反抗してしまうようなことも、他の人からアドバイスされると案外簡単に受け入れられることもあります。進んだり戻ったりを繰り返しながら、少し背中を押してあげることで、驚くほどぐんぐん成長していく姿を見て、その可能性を絶対に諦めてはいけないと学びました。

ここでの経験は私にとって大変貴重なものであり、教員になる上でも一生忘れず持っていたいと思うようになりました。

この子どもカフェは、子どもたちはもちろんですが、私のような学生にとっても非常に素晴らしい経験を積むことのできる場所であり、その場に関わることができて本当に幸せです。

助けを必要としている子どもたちやそのご両親にとって、子どもカフェが大きな支えになっているのだと実感しました。



寄せられた市民の声から



- ◆ 子ども達と社会との架け橋になることであれば、私の出来ることで協力させていただきます。(市民)
- ◆ 活動に共感します。少しでも不登校の子ども達の力になればと思います。ご連絡下さい(元教師)
- ◆ 子ども達が学校に戻っていくお手伝いが出来たら嬉しいです。(大学生)
- ◆ たくさんの子どもたち、親たち、先生たちが救われたことでしょう。これからも活動を是非とも続けて下さい。私も応援します。(市民)
- ◆ 主婦です。教職経験はありません。わが子が不登校になり悩んでいた時、吹田子ども支援センターの活動をホームページで知り、私にでもお役にたてるのであれば、お手伝いをしたいと思い連絡しました。(市民)
- ◆ 講演会も良かったのですが、本日のような少人数での親の相談会・交流会も有り難いです。同じ悩みを抱えたお母様方と同じ時間を過ごせて癒されました。(中学3年生の母)
- ◆ 大学の講義で、不登校の子どもへの関心が深まり、是非とも関わりたいと思いました。授業の空いている時間出来るだけかかわりたいです。(大学生)
- ◆ ニュースや友達から聞く限りですが、学校教育の現場は益々厳しく、課題も多様化しているとのこと。支援対象を子ども、親に限局せず、「市民ネットワークをつくっていこう」とされることに共感しました。(市民)
- ◆ 子ども達を育てていく親としても、このような「場」があることは安心感につながりますし、現場で悩む若い教職員の方々を支えてくださる事にも期待しております。(市民)
- ◆ 近所の母子家庭のお子さんが不登校で自宅にずっと引きこもっているのを知りどうしたものか困っていたところ、近所の人に森本先生に相談したらと勧められました。さっそく学校や母親と連絡され、今、勉強を見ていただいているとのこと、ありがとうございます。(市民)
- ◆ 大学生をサポートする仕事をしています。
子どもの相談援助や就職等専門機関の情報提供及びそこへつなぐ事ならいつでもご連絡下さい。(市民)
- ◆ 3人の子どもを育てています。子育ての悩みを親御さんから聞くことなら出来ます。支援をしたいです。(市民)
- ◆ パソコン関係の仕事をしていました。パソコンを子ども達に教えることができました。(市民)
- ◆ 私は、自身が身体障がいの後遺症を負い「いつか障がい者の方や不登校・ひきこもりの方へサポートをしたい。自分の経験を生かし、お役に立ちたい」と思っている

ました。活動を手伝わせて下さい。(市民)

- ◆ 大学生の支援員が必要な時は、声をかけて下さい。学生達に呼びかけます。また、講演会を開催される時に大学を利用していただければと思います。(大学教授)
- ◆ 私は、大学生時代は、塾の講師のアルバイトをしていました。子どもが好きなので子どもに勉強を教えることが出来れば嬉しいです。(市民)
- ◆ ホームページを拝見しました。私は、将来教師になることを目標に東京の大学で学んでいます。
吹田まで伺い、直接的な活動支援は出来ませんが、賛助会員として支援します。頑張ってください。(大学院生)
- ◆ 社会福祉関係の仕事についております。教職経験のない私ですが、何かお役にたてることがありましたらご連絡下さい。(市民)
- ◆ 昨年吹田の小学校を退職しました。小学校の子ども達のお役にたてることがありましたらご連絡下さい。(元教師)
- ◆ 今春、大学生になりました。ホームページを見てスタッフになれたらと連絡させていただきました。小学校の先生になりたいと思っています。不登校の子どもやひきこもりの子どもと接したいです。私でも大丈夫でしょうか。
- ◆ Aさんのお手紙、すっかり高校生らしくなったBくん姿…大変嬉しく思いました。本当に「吹田子ども支援センター」の皆様の活動のおかげです。
今回の活動報告を拝見して、改めて厳しい運営状況がわかりました。
企業会員に入会させていただきたいと思います。(連携する医療法人医師)
- ◆ 着実に子どもの前に階段を用意しようとしておられることに共感を覚えます。
お手伝い、出来ることはさせていただきます。(元教師)
- ◆ 子ども達と社会との架け橋になることであれば、私の出来ることで協力させていただきます。(市民)
- ◆ 活動に共感します。少しでも不登校の子ども達の力になればと思います。ご連絡下さい(元教師)
- ◆ 子ども達が学校に戻っていくお手伝いが出来たら嬉しいです。(大学生)
- ◆ たくさんの子どもたち、親たち、先生たちが救われたことでしょう。これからも活動を是非とも続けて下さい。私も応援します。(市民)
- ◆ 主婦です。教職経験はありません。わが子が不登校になり悩んでいた時、吹田子ども支援センターの活動をホームページで知り、私にでもお役にたてることがあれば、お手伝いをしたいと思い連絡しました。(市民)
- ◆ 講演会も良かったですが、本日のような少人数での親の相談会・交流会も有り難いです。同じ悩みを抱えたお母様方と同じ時間を過ごせて癒されました。(中学3年生の母)

- ◆ 大学の講義で、不登校の子どもへの関心が深まり、是非とも関わりたいと思いました。授業の空いている時間に出来るだけかかわりたいです。(大学生)
- ◆ ニュースや友達から聞く限りですが、学校教育の現場は益々厳しく、課題も多様化しているとのこと。支援対象を子ども、親に限局せず、「市民ネットワークをつくっていこう」とされることに共感しました。(市民)
- ◆ 子ども達を育てていく親としても、このような「場」があることは安心感につながりますし、現場で悩む若い教職員の方々を支えてくださる事にも期待しております。(市民)
- ◆ 近所の母子家庭のお子さんが不登校で自宅にずっと引きこもっているのを知りどうしたものか困っていたところ、近所の人に森本先生に相談したらと勧められました。さっそく学校や母親と連絡され、今、勉強を見ていただいているとのこと、ありがとうございます。(市民)
- ◆ 大学生をサポートする仕事をしています。
子どもの相談援助や就職等専門機関の情報提供及びそこへつなぐ事ならいつでもご連絡下さい。(市民)
- ◆ 3人の子どもを育てています。子育ての悩みを親御さんから聞くことなら出来ます。支援をしたいです。(市民)
- ◆ パソコン関係の仕事をしていました。パソコンを子ども達に教えることができます。(市民)
- ◆ 私は、自身が身体障がいの後遺症を負い、「いつか障がい者の方や不登校・ひきこもりの方へサポートをしたい。自分の経験を生かし、お役に立ちたいと思っていました。活動を手伝わせて下さい。(市民)
- ◆ 大学生の支援員が必要な時は、声をかけて下さい。学生達に呼びかけます。また、講演会を開催される時に大学を利用していただければと思います。(大学教授)
- ◆ 私は、大学生時代は、塾の講師のアルバイトをしていました。子どもが好きなので子どもに勉強を教えることが出来れば嬉しいです。(市民)
- ◆ ホームページを拝見しました。私は、将来教師になることを目標に東京の大学で学んでいます。吹田まで伺い、直接的な活動支援は出来ませんが、賛助会員として支援します。頑張ってください。(大学院生)
- ◆ 社会福祉関係の仕事についております。教職経験のない私ですが、何かお役にたてることがありましたらご連絡下さい。(市民)

- ◆ 昨年吹田の小学校を退職しました。小学校の子ども達のお役にたてることがありましたらご連絡下さい。（元教師）
- ◆ 今春、大学生になりました。ホームページを見てスタッフになれたらと連絡させていただきました。小学校の先生になりたいと思っています。不登校の子どもやひきこもりの子どもと接したいです。私でも大丈夫でしょうか。
- ◆ Aさんのお手紙、すっかり高校生らしくなったBくん姿…大変嬉しく思いました。本当に「吹田子ども支援センター」の皆様のおかげです。今回の活動報告を拝見して、改めて厳しい運営状況がわかりました。企業会員に入会させていただきたいと思います。（連携する医療法人医師）
- ◆ 着実に子どもの前に階段を用意しようとされておられることに共感を覚えます。お手伝い、出来ることはさせていただきます。（元教師）
- ◆ 私の息子が孫の事で先生にお話を聞いて頂き、すごく心の支えになったと思います。ありがとうございます。私が、お話に寄せていただいた時、2階の狭い部屋いっぱいには生徒さんに勉強させてあげていたのが頭にあります。相談や生徒さんのお世話にと大変なお仕事に頭が下がります。一人でも多く困った人を助けてあげてください。（市民）
- ◆ 娘が支援センターにお世話になり、今は元気に働いております。感謝の気持ちで、企業会員として毎年わずかですが賛助金を振り込ませていただきます。
- ◆ 今春大学に入学しました。教師を目指しています。是非ともお手伝いをさせて下さい。（大学生）



子育てはみんなが悩んで歩んだ道

ご相談ください！先ずはお電話を！

不登校・発達障がい（凸凹）・学力や進路・教育トラブルなど

経験豊富な教育や心理の専門家が、アドバイスや支援を行います！

開館・相談・支援料について



- ◆ 開館曜日 月～金 ◆ 開館時間 10～17
開館日以外・時間外でも可能な限り対応します。
- ◆ 電話相談 緊急以外は10時～20時まで 無料
- ◆ 面談 初回のみ30分以内 無料
以降1時間以内2000円 1時間以上3000円
- ◆ 学習支援（家庭訪問支援）、子どもカフェ（居場所）の料金は
直接お問い合わせ下さい。



来所前に在室確認の電話を入れてからお越し下さい。
経済的な事情のある方は、ご相談下さい。

子どもをささえる 市民がつながる

吹田市民公益活動団体

吹田子ども支援センター

吹田市千里山西1丁目2-7-102

阪急関大前駅北改札口西側

千里山西郵便局階上2階 202号室

電話：090-3464-0850

携帯メール：suita0850@docomo.ne.jp

PCメール：suitakod0850@yahoo.co.jp

ホームページ：<http://www.suita-kodomosien.org>



※ 当センターの活動は、吹田市からの活動補助金や市民からの賛助金を得て、運営されています。